

## 研究成果及び活動一覧 (2001. 1. 1～12. 31)〔五十音順〕

- A : 著書、論文、書評など  
 B : 学会での口頭発表その他の活動  
 C : 講演、論説など  
 D : 学術的調査

## 井上英明

- A : 1 (論文) Some Problems of Japanese Myth (TRANSACTION OF THE INTERNATIONAL CONFERENCE OF EASTERN STUDIES. NO. XLV. 2001) pp. 114～118.  
 2 (論文)「紫式部からレディムラサキへ」(佐倉国際文化大学紀要) 2001. 3.
- C : 1 (基調講演)「太平洋の新しい大学群」(日豪ニュージーランド教育文化学会。於明星大学日野校 16 号館、国際教育センター) 1. 13.  
 2 (論説) PACIFIC UNIVERSITIES—Achievements, Problems and Prospects (JANTA NEWS NO, 70.) 3. 31.  
 3 (講演) The Role of the University in the Twenty-first Century (HEILONGJIANG University on the Sixtieth Diamond Jubilee Anniversary) 9. 22.  
 4 (講義)『源氏物語と紅楼夢』(於ハルピン師範大学日本語科学生のため) 9. 24.  
 5 全国大学国語国文学冬期大会(於奈良県立万葉文化館内万葉古代学研究所) 事務局長として閉会の辞。  
 6 日本文体論学会常任理事(年間)  
 7 東方学会評議員として国際分科会議の策定プラン—西脇順三郎とモダニズム—  
 8 早稲田大学比較文学会常任理事(年間)  
 9 日豪 NZ 教育文化学会会長(年間)
- D : 1 首都師範大学(北京)訪問。5. 3～4. 遼寧師範大学(大連)訪問  
 2 黒竜江大学、ハルピン師範大学訪問 5. 9～12.  
 3 国立民族博物館—国際学術交流のための資料収集。

## 牛村 圭

- A : 1 (単行著書)『「文明の裁き」をこえて——対日戦犯裁判読解の試み——』、中央公論新社、382 ps、1. 10.  
 2 (論文)「ストックホルムの旭日——オリンピックという前衛——」、明星大学日本文学学部編『伝統と前衛』、pp. 299-318. 3. 10.  
 3 (論文)「「A 級戦犯」を濫用するなかれ」、『諸君!』9月号、pp. 70-79. 8. 1.  
 4 (解題)「解説『昭和の動乱』」、重光葵『昭和の動乱 下』、中公文庫、pp. 372-378. 10. 25.

- B : 1 (研究発表)「文明の世紀をかえりみて」、二十一会(粕谷一希、中嶋嶺雄、袴田茂樹、高階秀爾)、7. 26.
- 2 (研究発表)「文明の世紀と東京裁判」、PHP 研究所「新しい人間観の研究」会(渡部昇一、谷沢永一、土居健郎、木村治美、松田義幸)、10. 22.
- 3 (研究発表)“The Legacy of World War Two—The Tokyo War Crimes Trial and its Intellectual Influence upon Postwar Japan—” in the Breakout Session “The Weight of History”. サンフランシスコ講和条約50周年記念日米シンポジウム(於・サンフランシスコ、パレスホテル) “The United States and Japan: An Enduring Partnership in a Changing World”. 9. 7.
- 4 「共同研究・文明から観る二十世紀日本の学際的研究」(サントリー文化財団) 主宰。
- C : 1 (公開講座)「比較文化の愉楽——近代日本の異文化体験を読む——」、明星大学青梅キャンパス第18回公開講座、5. 26.
- 2 (座談会)「『国際軍事法廷』は『文明の裁き』たりうるか」(小堀桂一郎、クライン孝子、工藤雪絵と同席)『諸君!』平成14年1月号、pp. 58-71. 12. 24.
- 3 *The New York Times* 東京支局長ハワード・フレンチより日本近現代史につき電話取材。以下の記事に部分掲載。“Shrine Visit and a Textbook Weigh on Koizumi’s Future” *The New York Times* p. 3, 8. 12.
- 4 (論説)「文明の世紀をかえりみて」、『北國新聞』、p. 3, 4. 8.
- 5 (論説)「実用英語という幻想」、『北國新聞』、p. 3, 5. 20.
- 6 (論説)「海の向こうは勤勉か」、『北國新聞』、p. 3, 7. 1.
- 7 (論説)「歴史を語る難しさ」、『北國新聞』、p. 3, 8. 12.
- 8 (論説)「米国に使いして」、『北國新聞』、p. 3, 9. 23.
- 9 (論説)「一貫性なき主張を憂う」、『北國新聞』、p. 3, 11. 4.
- 10 (論説)「国際化とは何だったのか」、『北國新聞』、p. 3, 12. 16.

#### 岡田恒雄

- A : 1 「ドイツのハムレット—ハイナー・ミュラー『ハムレットマシーン』を中心に—」、大井邦雄〔編〕『「ハムレット」への旅立ち』pp. 214-236, 早稲田大学出版部 1. 10.
- B : 1 明星大学能楽講座報告書『シェイクスピアと能楽』編集 2. 28.
- C : 1 「プレヒト『セチュアンの善人』について」、池袋小劇場セミナー発表、池袋小劇場 10. 25.

#### 加藤めぐみ

- A : 1 “Madame Izàn: Butterflies and the Incomprehensible Japanese”, *Interactions: Essays on the Literature and Culture in the Asia-Pacific Region*, ed. Dennis

- Haskell and Ron Shapiro, University of Western Australia Press, pp. 164-170, 1. 31.
- 2 「追悼—ジュディス・ライト、A. D. ホープ」、『南半球評論』第16号、pp. 60-63. 2. 26.
- 3 “Perceiving ‘the Other’ : Australian Literary Response to the Japanese Prisoner-of-War Breakout in Cowra”, 『明星大学 研究紀要』第9号（日本文化学部・言語文化学科）、pp. 96-106, 3. 25.
- B : 1 学会発表：“Reconstructing ‘Cowra’: Australian Interpretations of the Japanese Prisoner-of-War Breakout”, Annual Conference of the Association for the Study of Australian Literature, Melbourne University, 7. 7.
- 2 オーストラリア・ニュージーランド文学会理事運営、年間
- C : 1 20世紀オーストラリア文学にみる日本人像（平成12—13年度文部科学省 科学研究費萌芽的研究指定）：オーストラリア、キャンベラ Australian Defence Force Academy 及び National Library of Australia において資料収集、研究打合せ 3. 23-28.
- 2 20世紀オーストラリア文学にみる日本人像（平成12—13年度文部科学省 科学研究費萌芽的研究指定）：オーストラリア、キャンベラ Australian Defence Force Academy 及び National Library of Australia において資料収集、研究打合せ 8. 13-22.

#### 古田島洋介

- A : 1 随筆：「すべからく」考（続）、「比較文学研究」第77号、pp. 179~182、2. 10.
- 2 「昭和九年の墨塗り教科書——漢文音読方式は前衛的であったか」、『伝統と前衛』（明星大学青梅校舎日本文化学部共同研究論集・第四輯、[編集責任者] 小堀桂一郎、明星大学日本文化学部）pp. 278~298、3. 10.
- 3 「定訓と解釈をめぐって——高橋和巳氏の注釈態度と加地伸行氏の漢文教育論」、『明星大学紀要』（日本文化学部・言語文化学科）第9号、pp. 41~48、3. 25.
- 4 注釈：岩波書店《鷗外歴史文学集》第13巻『漢詩』（下）、361ps.+索引53ps.、3. 26.
- B : 1 学会／司会：第4回東アジア比較文化国際会議日本支部大会において、二名の研究発表（黄少光「菅家万葉集の詩律」、金文学「在日朝鮮人文学と在中朝鮮族文学の比較研究」）の司会をつとめる。西宮市・大手前大学、6. 16.
- 2 引率研修旅行「台湾道教研修旅行」：五名の学生を引率し、台湾・台北市の道教寺廟（三峡清水祖師廟、行天宮、指南宮など）にて研修を行なう。8. 26~30.
- 3 学会／司会＋発表：南開大学日本研究センター・東アジア比較文化国際会議 [共同主催] 国際学術シンポジウム「変動期における東アジアの社会と文化」において、

第二日(9.9.)14:00~16:00に第一分科会の司会をつとめ、第三日(9.10.)9:10~40に第一分科会にて「《諸橋大漢和》与《漢語大詞典》」[中国語]を发表。中国・天津市、南開大学日本研究センター国際会議室翔宇ホール、9.8~10.

- 4 シンポジウム/セミナー講師:「岩倉使節団派遣130年記念国際シンポジウム」セミナー「岩倉使節団の再発見とその今日的意義」(11.23~24.)第二日「東西文明の遭遇——19世紀アジアからの挑戦」Dセッションにおいて、11:20~50に「『米欧回覧実記』を読むために——漢文訓読表現の難しさ」を发表。神田一ツ橋・学術総合センター、11.24.
- 5 An Advisory Staff of Kume Kunitake's *The Iwakura Embassy 1871-73*, vol. III, *The Japan Documents*, 2002. 久米邦武『米欧回覧実記』英文完訳版(日本文献出版、2002)第3巻の英文校閲(12月下旬印刷完了)。

- C: 1 集中講義「日本文学・日本文化の自律性と他律性」、山東大学外国語学院日本語専攻科:3~4年生+大学院生、中国・山東省済南市、3.10~21.
- 2 特別講義「漢文訓読とは何か?」、宮城学院女子大学日本文学科3~4年生、仙台市、10.24.

小堀桂一郎(日刊紙、週・月刊誌所掲の談話、短文を除く)

- A: 1 (論文)「昭和天皇の世紀」、『祖国と青年』1月号、pp.26~37、1.1.
- 2 (書評)色摩力夫著『日本人はなぜ終戦の日付を間違えたのか』、『正論』2月号、2.1.
  - 3 (論文)「大学における外国語教育を考へる」、日本の高等教育を考へる会『啐啄』19号、2.10.
  - 4 (論文)「台湾論」三篇(旧稿再録)、『日華交流教育会々報』17号、2.11.
  - 5 (論文)「西洋世界からの訪問者」、西尾幹二編『地球日本史』②、pp.449~470、2.28.
  - 6 (論文)「自らの歴史を自らの手に取り戻すために」、『正論』3月号、pp.80~93、3.1.
  - 7 (論文)「明治といふ時代」、明治神宮崇敬会『代々木』春期号、3.1.
  - 8 (論文)「黄金時代考」、明星大学日本文化学部共同研究論集・第四輯『伝統と前衛』pp.3~76、3.10.
  - 9 (論文)「夫婦の絆」、『明星大学日本文化学部言語文化学科研究紀要』第9号、pp.1~19、3.25.
  - 10 (講義筆録)「国際的視野から見た日本の国柄」、国民文化研究会『日本への回帰』第36集、pp.23~62、4.10.
  - 11 (論文)「日本は東京裁判を受容れたわけではない」、日本青年協議会結成三十周年記念論集『日本の歴史と文化と伝統の上に立って』、pp.299~316、4.29.
  - 12 (論文)「水戸学の近代性」、西尾幹二編『地球日本史』③、pp.215~234、4.30.
  - 13 (論文)「ジャーナリスト魂を喪った朝日の記者諸君へ」、『正論』5月号、pp.56~

- 67、5. 1.
- 14 (論文)「国家主権意識の確立を」、『VOICE』5月号、pp. 84~87、5. 1.
- 15 (書評) 田中卓著『平泉史学と皇国史観』、『正論』6月号、6. 1.
- 16 (論文)「日本の戦争は自衛戦争だった」、国策研究会『新国策』6月号、pp. 4~16、6. 15.
- 17 (講演筆録)「政教関係から見た靖国問題」、政教関係を正す会『会報』19号、pp. 1~11、6. 30.
- 18 (論文)「東京裁判を見直す海外の理性の眼」、『正論』7月号、pp. 304~323、7. 1.
- 19 (論文)「自らの歴史を自らの手に取り戻すために」(再録)、cf. A6、産経新聞社『日本の正論』pp. 279~306、7. 30.
- 20 (単行本)『イソップ寓話』、講談社学術文庫、ps. 307、8. 10.
- 21 (単行本)『さらば東京裁判史観』、PHP文庫、ps. 245、8. 15.
- 22 (単行本)『奪はれた歴史』、PHP研究所、ps. 207、8. 21.
- 23 (書評) 安村廉著『愚かな外交・悲しき日本』、産経新聞朝刊、8. 26.
- 24 (論文)「The Encounter bet. Western a. Japanese Civilizations」、『Journal of Japanese Trade a. Industry』vol. 20、no. 5、pp. 52~55、9. 1.
- 25 (書評) 田中正明著『南京虐殺否定十五の論拠』、「興亜観音」14号、10. 18.
- 26 (論文)「R. シュトラウス「四つの最後の歌」について」、『R. シュトラウス協会年誌』17号、pp. 28~39、10. 25.
- 27 (編纂)『児玉記念図書館開館二十五周年記念明星大学所蔵貴重書図録』明星大学、12. 20.
- C : 1 (散文)「観艦式」、『正論』1月号、1. 1.
- 2 (散文)「三輪山鑽仰」、大神神社刊『大美和』第百号記念号、1. 1.
- 3 (論説)「永住外国人への地方参政権付与に異議あり」、田久保忠衛編『国家を見失った日本人』、小学館文庫、pp. 167~173、1. 1.
- 4 (対談)「正論大賞受賞記念対談」、vs 石原慎太郎、産経新聞朝刊、1. 4.
- 5 (序文) 福井雄三訳・K. カワカミ原著『シナ大陸の真相 1931~1938』展転社、1. 7.
- 6 (対談)「打ち立てよ、日本の志」、vs 山本卓真、日本会議『日本の息吹』1月号、1. 15.
- 7 (散文)「わが生ひ立ち」、『正論』2月号、2. 1.
- 8 (講演)「戦後日本史の真実を語る」、日本青年会議所新潟ブロック協議会、於新潟市、2. 9.
- 9 (論説)「首相公選制は国体に違反する」、産経新聞朝刊「正論」欄、3. 8.
- 10 (講演)「伝統の継承について」、正論大賞受賞記念講演、於大阪市、3. 15.
- 11 (講演)「戦後史の実相」、海上自衛隊徳島教育航空群・小松島航空隊、於徳島市、3. 22.
- 12 (講演)「歴史解釈権の回復を」、正論大賞受賞記念講演、於イイノホール、4. 10.
- 13 (講演)「日本近現代史と歴史認識」、国策研究会会員懇談会四月例会、4. 19.

- 14 (論説)「国家主権を再考するとき」、産経新聞朝刊「正論」欄、4. 25.
- 15 (講演)「伝統の継承といふこと」、日本橋法人会年次総会、於ロイヤルパークホテル、4. 27.
- 16 (講演)「国家主権の尊厳・貫徹と失墜の事例」、主権回復記念国民集会、於九段会館、4. 28.
- 17 (講演)「五十年の後遺症—21世紀より顧みる東京裁判」、産経新聞洲本正論講演会、於洲本市、6. 5.
- 18 (論説)「文化の危機」、日本会議『日本の息吹』6月号、6. 15.
- 19 (講演)「日本文化の危機」、経済安保研究会、於参議院会館、6. 18.
- 20 (講義)「昭和天皇の世紀」、神社本庁中堅神職研修、於伊勢神宮、7. 9.
- 21 (論説)「靖国神社の正統性は揺がず」、産経新聞朝刊「正論」欄、7. 10.
- 22 (講演)「国家主権について」、日本会議百人委員会第六回、於大阪、7. 12.
- 23 (論説)「伝統を断絶させた国語改革」、『世界日報』、7. 14.
- 24 (講演)「靖国公式参拝の実現に向けて」、「正論の会」月例会、於産経会館、7. 14.
- 25 (論説)「平和条約第十一条の誤訳に発した禍」、産経新聞朝刊「正論」欄、7. 23.
- 26 (対談)「国体を破壊する公選の思想」、vs 西部邁、『発言者』8月号、pp. 14~31、8. 1.
- 27 (論説)「小泉首相の靖国神社参拝の決断を心から支持する」、『月刊日本』8月号、8. 1.
- 28 (論説)「外交の構造改革時機到来」、産経新聞朝刊「正論」欄、8. 11.
- 29 (対談)「毅然として公式参拝せよ」、vs 渡部昇一、『VOICE』9月号、9. 1.
- 30 (対談)「小泉首相の靖国神社参拝をいかに考えるか」、vs 長谷川三千子、日本会議『日本の息吹』9月号、pp. 10~15、9. 15.
- 31 (講演)「国家主権回復への道」、日本青年協議会九州ブロック時局講演会、於福岡市、9. 15.
- 32 (談話)「日本人にとって靖国神社とは何か」、『靖国』10月号(555号)、pp. 6~10、10. 1.
- 33 (論説)「真の敵を捉へ損なったアメリカ」、日本郷友連盟・季刊『日本の再生』11号、pp. 3~14、10. 1.
- 34 (散文)「仮名遣学びのすすめ」、(財)実務教育研究所『道標』10月号(523号)、10. 1.
- 35 (論説)「小泉総理の北京での屈辱」、時局心話会『時局コメンタリー』308号、10. 12.
- 36 (講演)「昭和時代の日本史」、月曜会五周年記念総会、於茗溪会館、10. 13.
- 37 (論文)「運命の十年・二つのテロ事件」、産経新聞朝刊特集面、10. 16~17.
- 38 (講演)「近代歴史画の思想」、佐野市教育委員会ウィークエンドセミナー、於佐野市文化会館、10. 20.
- 39 (講演)「E. ケンペル『日本誌』の数奇な運命」、明星大学児玉記念図書館開館二十五周年記念行事、10. 27.

- 40 (論説)「新学習指導要領の実施を阻止せよ」、産経新聞朝刊「正論」欄、11. 1.
- 41 (鼎談)「何が真珠湾だ、特攻だ!」、vs 入江隆則・田久保忠衛、『諸君!』11月号、pp. 78~90、11. 1.
- 42 (講演)「国際的視野より見たる日本の国体」、防衛庁統合幕僚学校統友会、於市谷会館、11. 20.
- 43 (序文) 田中正明著『南京事件の総括』「薦める詞と祝勝の辞」、展転社、11. 25.
- 44 (論説)「「敵」はテロリスト集団である」、国民新聞 19069号、11. 25.
- 45 (論説)「新宮様御誕生おめでとうございます」、産経新聞朝刊「正論」欄、12. 2.
- 46 (時評)「正論大賞受賞屋山太郎氏への祝辞」産経新聞朝刊特集面、12. 18.

## 佐佐木茂美

2000年

- A : 1 (論文)「『人間は樹木のごとく…』」(IV)、共同研究論集、『想像力と現実描写』、第三集(明星大学、日本文化学部)、pp. 165-203, 2000. 3
- 2 (論文)「『人間は樹木のごとく…』」(V)、『明星大学研究紀要』、N°8(日本文化学部、言語文化学科) pp. 138-148, 2000. 3
- 3 (論文要旨)「『散文トリスタン物語』の受容の問題(『散文トリスタン』からガストン・フェビュスへ)」、*Etudes de Langue et Littérature Françaises*, N°77, 日本フランス語フランス文学会、p. 108, 10. 27
- B : 1 (学会口頭発表)「『散文トリスタン物語』の受容の問題(『散文トリスタン』からガストン・フェビュスへ)」、日本フランス語フランス文学会総会、於明治学院大学白金校舎、5. 21
- 2 (学会基調講演) “Voies de savoir et de poésie dans *Le Chemin de Long Estude*”, Colloque de Christine de Pizan (司会 A. J. Kennedy (学会会長・主催者))、University of Glasgow, 7. 20
- 3 (外国人学者講演の報告)「Jean-Claude Faucon 教授訪日」、国際アーサー王学会日本支部会報、13号、2000. 9
- C : 1 (講演会司会) Jean-Claude Faucon (ツールーズ大学大学院教授)「ヨーロッパ中世の騎士像」、明星大学(青梅校舎)日本文化学部(学部長挨拶)、5. 10

2001年

- A : 1 (論文) “Faune et Flore dans *Le Devisement du Monde : Mont Vert du Grand Kaan et*” Vergier de Dedit,” in *Guerres, Voyages et Quêtes au Moyen Age. Mélanges offerts à Jean-Claude Faucon*. Etudes réunies par A. Labbé, D. W. Lacroix et D. Quérueil, Paris, Champion, pp. 381-388, 2001. 3
- 2 (研究発表要旨) “Apollo de Lionois et son Lévrier”, in *Bulletin Bibliographique de la Société Internationale Arthurienne*, vol. LII (2000), p. 435, 11. 5

佐々木 滋

- A : 1 「日本人とドイツ人のうたごころ」「青梅会報」第19号 10.17.
- C : 1 「日本人とドイツ人のうたごころ」明星大学青梅校舎  
第18回公開講座 6.9.
- D : 1 「カール・アインシュタイン、20世紀の芸術—コロクヴィウム2001」、ミュンヘンのハウス・デア・クンストに参加 14-16.9.

正慶 孝

- A : 1 (論文)「大衆社会の経済学——伝統と前衛」明星大学日本文化学部共同研究論集・第四輯(平成13年3月)所収、pp.153-174
- 2 (論文)「ポスト資本主義社会の文化的矛盾」明星大学日本文化学部言語文化学科紀要第9号(平成13年3月)所収、pp.21-29
- 3 (論文)「現代の予言者、ダニエル・ベル」東京学芸大学海外子女教育センター『国際教育研究』第21号(平成13年3月)所収、pp.1-21
- C : 1 (論説)「フォード主義乗り越えて環境に配慮した経済へ」『財界にっぽん』(平成13年3月号)、pp.30-33
- 2 (論説)「ケインズを読む」『オンリー・ユー』(電子マガジン)(エディターシップ発信、平成13年11月号)、400字×10枚分
- 3 (論説)「古典を読む」『オンリー・ユー』(電子マガジン)(エディターシップ発信、平成13年12月号)、400字×10枚分
- 4 (コメント)「夢あきらめない若者」『日本経済新聞』(平成13年4月5日付夕刊)
- 5 (講演)「ポスト・グーテンベルクの時代」明星大学児玉記念図書館開館二十五周年記念事業講演会、10月20日、(於 明星大学)
- 6 (コメント)「ソリューションビジネスを定義するキーワードとは？」ダイヤモンド・ビック社『DBL(ダイヤモンドビジネス研究)ソリューションビジネス特集——付加価値をインテグレートする仕事』所収(2001年12月1日発行)、p.29

田中 敏

- B : 1 (インタビュー)ドイツの作家マルチン・ヴァルザーを、ボーデン湖畔のユーバールンゲンの氏の自宅でインタビューする。テーマは「ヴァルザー・ブービス論争」平成13年3月16日(金)14時~16時
- 2 (報告)「何時まで『謝れ!』というのか」、『諸君!』(文芸春秋)平成13年7月号、平成13年3月16日に行なったドイツの作家マルチン・ヴァルザーのインタビューの再構成と解説、p.142~164



## 菱山覚一郎

- A : 1 「デューイ教育思想と『伝統』、『伝統と前衛』(明星大学日本文化学部共同研究論集・第四輯) pp. 223~244、3. 10.  
2 『社会科教育』明星大学出版部、12.28.
- B : 1 (答申)「青梅市における成人式のあり方について」青梅市教育委員会、9. 25.

## 秀村研二

- A : 1 「東海(トンへ)に面した村で」(「韓国を歩く」第一回)、『アジア遊学』第24号(勉誠出版)、pp. 131-144、2. 5  
2 「位牌をもちいない祖先祭祀—伝統としての『儒教社会』の諸相—」、『伝統と前衛』(明星大学日本文化学部共同論集・第四輯) pp. 245-262、3. 10
- B : 1 「フィールドとしてのキリスト教」、韓国・朝鮮文化研究会第二回研究大会シンポジウム「韓国研究におけるフィールドのあり方」於東京大学、10. 27  
2 「韓国キリスト教と土着化」、国立民族学博物館共同研究「キリスト教と『文明化』の人類学的研究」、於国立民族学博物館、12. 22  
3 「宗教と社会」学会、編集委員  
4 韓国・朝鮮文化研究会、理事
- D : 1 韓国社会におけるキリスト教の受容と展開および儒教と民俗社会に関する研究・調査、(大韓民国ソウル市、京畿道高楊市)、3. 6~3. 16  
2 韓国社会におけるキリスト教の受容と展開、および儒教と民俗社会に関する研究・調査、(大韓民国ソウル市、京畿道高楊市、京畿道坡州郡)、8. 26~9. 14

## 林 雄介

- A : 1 書評：柳永益著『日清戦争期の韓国改革運動—甲午更張研究』、『歴史評論』610号、pp. 92~96・91、歴史科学協議会、2. 1.  
2 「1898年平壤民乱について」、『朝鮮文化研究』第8号、pp. 27~39、東京大学大学院人文社会系研究科・文学部朝鮮文化研究室、3. 10.  
3 「19世紀末~20世紀初頭、朝鮮の民衆運動」、『東アジア近代史』第4号、pp. 20~29、東アジア近代史学会、3. 31.  
4 「日韓大学生の歴史認識に関する意識調査」、『学習院大学東洋文化研究所調査研究報告』No. 50(『政治文化の視点に基づく21世紀における日韓共生の構図』)、pp. 16~22、学習院大学東洋文化研究所、3. 31.  
5 「明治日本と韓国—外交文書に見る近代日韓関係」、『青梅会報』第19号、pp. 64~69、明星大学情報・日本文化学部育星会、10. 17.

- B : 1 シンポジウム/パネリスト：東学農民革命国際学術大会、(社)東学農民革命記念

- 事業会、東アジア平和・人権国際会議韓国委員会主催、於大韓民国全州市コアリベ  
ラホテル、6. 1～6. 2.
- 2 シンポジウム／パネリスト：日韓歴史共同研究プロジェクト第4回シンポジウム、  
於ソウル大学校、8. 25～8. 26.
- 3 朝鮮史研究会幹事、年間
- 4 歴史科学協議会編集委員、年間
- C : 1 「明治日本と韓国—外交文書に見る近代日韓関係」、明星大学青梅キャンパス第18  
回公開講座、5. 19.
- D : 1 近代朝鮮政治史、社会史関係の資料・文献を、大韓民国国立ソウル大学校・国立中  
央図書館・国立国会図書館等にて収集、8. 20～8. 24.

**深澤 清**

- A : 1 「自己探求の旅—ふるさとがえりの文学」『伝統と前衛』（明星大学青梅校舎日本  
文化学部共同研究論集）、pp. 177～195、3. 25.
- 2 （共著） *Economics and Social Prosperity* 南雲堂 p. 128、4. 1.
- 3 「The Wanderings of Oisín に託された詩人の想い」『イエイツ研究』（32号 日  
本イエイツ協会）pp. 65～66、9. 20.
- B : 1 日本ワイルド協会 幹事・書記（通年）
- C : 1 「母性の二面性—アイルランド文学における母性の役割」明星大学青梅キャンパ  
ス公開講座第19回、11. 20
- D : 1 アイルランド Trinity College Library で資料調査 8. 21～29

**丸山正義**

- A : 1 「オデットとスワン—前衛の一九一三年」『伝統と前衛』（明星大学日本文化学部  
共同研究論集・第四輯）、pp. 236～277、3. 10.
- 2 「小楽節」のかなた（1）—「スワンの恋」と「ヴァントゥイユのソナタ」『明星  
大学紀要』（日本文化学部言語文化学科）第9号、pp. (29～38)、3. 25.

**山下善明**

- A : 1 「思惟の伝統と存在の革新—生きものとしての実存または虚存」、『伝統と前衛』  
（明星大学日本文化学部共同研究論集・第四輯）pp. 104～152. 3. 10
- C : 1 「現代日本の《価値観》への批判—何が「生きる力」を殺ぐのか」、『中央評論』  
（中央大学出版部）第53巻3号、pp. 38～44. 11. 20.

- 
- 2 「プロトス」、『琅』（編集・発行 宗内敦）第13号、pp. 16～24. 12. 20.

#### 宗内 敦

- A : 1 いじめ女子中学生の個別的指導法——「管理と抑圧」から「受容と共感」の生徒指導へ——「いじめ」指導の手引き p. 111-120, 松原達哉編 教育開発研究所 2001年9月
- 2 いじめ女子中学生の集団的指導法——教師加害者論から考える集団的指導——「いじめ」指導の手引き p. 122-132, 松原達哉編 教育開発研究所 2001年9月
- 3 教育・文芸同人誌『琅』12号 編集・発行 2001年5月
- 4 教育・文芸同人誌『琅』13号 編集・発行 2001年12月
- B : 1 態度形成に及ぼす「刺激提示の順序効果」と「情報提示効果」日本教育心理学会第43回総会発表論文集 2001年9月

#### 和田正美

- A : 1 「歴史小説に見る過去と現在—忠義の観念をめぐる伝統意識について」、『伝統と前衛』（明星大学日本文化学部共同研究論集・第四輯）、pp. 196～222、3. 10.
- 2 「フランス学雑感・序」、『明星大学研究紀要』（日本文化学部・言語文化学科）第9号、pp. 31～40、3. 25.
- 3 「優しさの上に立つ良識—佐藤欣子『正論を生きる』を読んで」、『琅』第13号、pp. 50～54、12月
- B : 1 明星大学日本文化学部合同研究会における発表「死刑について」、10. 30.

---

第14回日本文化学部合同研究会が以下の通り開催されました。

◆テーマ：「古典の智慧と現代の智慧」

◆発表者：

和田正美（言語文化学科）「死刑について」

西垣泰子（造形芸術学科）「ビジュアル・コミュニケーションとは何か？」

◆日時：平成13年10月30日（火）午後13：30～15：30

◆場所：日本文化学部研究棟4F：言語文化学科図書室（N-421）